特集「仮想化時代のインターネットと運用技術」の編集にあたって

武　藏　泰　雄[†1]

本特集号は「インターネットと運用技術研究会（IOT 研究会）」が中心となって企画したものである．

近年，ハードウェア，ストレージ，プラットフォーム，アプリケーションの仮想化等，様々な仮想化技術が発達し，リソースの効率化や柔軟な運用を行うことが可能となっている．これらの仮想化技術はクラウドコンピューティングの基本要素となっており，事実上の情報インフラとしての地位を確立しつつあるといえる．しかし，このような仮想化技術を用いてシステムを実現し，運用するためには，従来とは異なる管理・運用技術が要求されると考えられる．そこで本特集号では，仮想化時代のインターネットと運用技術に関する様々な研究論文を一括掲載し，これにより本分野の研究の推進と発展に寄与することを目的として企画された．

本特集では，19 編の論文が投稿された．これらの投稿論文を 22 名からなる特集号編集委員会により，通常の論文査読と同じメタレビュア方式で査読を行った．その結果，最終的に 7 編の論文を採録することとなった．

本特集号は，2008 年 4 月に「分散システム/インターネット運用技術研究会（DSM 研究会）」と「高品質インターネット研究会（QAI 研究会）」が合体して発足して，3 回目の特集号である．本特集号では，DSM 研究会が 2000 年より発行してきた特集号の考え方である「システムの構築・運用・管理における様々な創意工夫を研究分野としてとらえ，その研究活動の成果をまとめること」を受け継ぎ，研究分野を拡大した．複数の特集号の締切が接近していたことが影響したせいか投稿論文数こそ少なかったが，投稿された論文の質が高く，結果として十分な数の論文を採録するに至った．おおむね順調に発展しつつあると考えられる．

本特集号では，これまで行ってきた指導的査読のスタイルを引き継ぎ，掲載論文が質の良い論文となるように査読をできるだけ丁寧にすることを心がけた．来年度の特集号もこの方針を継続したい．引き続き，来年度の特集号でも多くの投稿を得て，より良い査読体制へのご協力をいただきつつ，この研究分野から質の良い論文が多く掲載されることを期待したい．最後に，本特集をゲストエディタ制により企画する機会をいただいたことに感謝する．また，本特集号に関心を寄せ，優れた論文を投稿していただいた著者の方々に感謝する．多忙な時期に，編集作業を的確にサポートをしていただいた副編集長をはじめ，論文誌発行までに多大なご協力をいただいた編集委員会委員各位，ご多忙の中，多数の論文を短時間で，しかも指導的査読という時間と手間のかかる作業にご協力いただいた査読者各位，ならびに多くの作業にご協力いただいた学会事務局に感謝する．

「仮想化時代のインターネットと運用技術」特集号編集委員会

- 編集長
  武藏泰雄（熊本大学）
- 副編集長
  吉田和幸（大分大学）
- 編集委員（五十音順）
  明石　修（日本電信電話株式会社），石島　悌（大阪府産業技術研究所），
  一井信吾（東京大学），河合栄治（情報通信研究機構），計　宇生（国立情報学研究所），
  齊藤明紀（鳥取環境大学），佐藤　聡（筑波大学），
  敷田幹文（北陸先端科学技術大学院大学），地引昌弘（日本電気株式会社），
  西村浩二（広島大学），萩原洋一（東京農工大学），林　治尚（兵庫県立大学），
  久長　穣（山口大学），前田香織（広島市立大学），桝田秀夫（京都工芸繊維大学），
  宮下健輔（京都女子大学），宮地利雄（JPCERT/CC），山井成良（岡山大学），
  山之上卓（鹿児島大学），渡辺健次（佐賀大学）

†1 熊本大学総合情報基盤センター
Center for Multimedia and Information Tehcnologies (CMIT), Kumamoto University

© 2011 Information Processing Society of Japan